

令和5年度不登校及び問題行動(いじめ・暴力行為)の状況について【概要版】

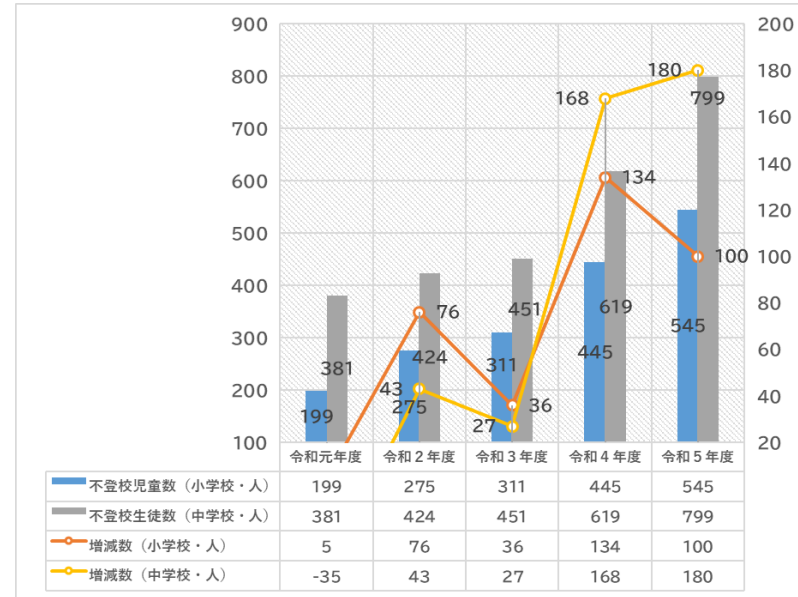
文教児童委員会資料
令和7年1月23日
教育委員会事務局指導室

調査の趣旨

- ①児童生徒の不登校及び問題行動(いじめ・暴力行為)について、本区の状況を調査・分析することにより、教育現場における生活指導上の取組のより一層の充実に資するものとする。
- ②実態把握を行うことにより、不登校児童生徒への適切な支援と児童生徒の不登校・問題行動(いじめ・暴力)の未然防止、早期発見、早期対応につなげていくものとする。

不登校について

不登校児童生徒数と増減数



相談・指導等を受けていない児童生徒の割合

校種	欠席状況	令和5年度
小学校	30日以上欠席	4.6%
	50日以上欠席	5.3%
	90日以上欠席	4.5%
中学校	30日以上欠席	1.9%
	50日以上欠席	2.2%
	90日以上欠席	1.6%

※50日及び90日以上欠席は、30日以上欠席の内数であるため、相談・指導等を受けていない児童生徒の割合は、重複している場合もある

不登校の現状等

令和5年度の不登校児童生徒数は、1,344人。前年度から280人増加。増加の割合は、1.26倍であり、前年度の1.40倍と比較すると、増加率は減少している。

不登校児童生徒のうち、半数以上が90日以上欠席となっている。不登校の要因については、小学校においては、不安・抑うつ、中学校においては、学校生活に対してやる気が出ない等の相談が最も多い。誰からも相談・指導等を受けていない児童生徒の割合は、不登校児童生徒数に対して小学校では4.6%、中学校では1.9%。

不登校児童生徒については、国、東京都は増加傾向であり、本区も同様の傾向である。文部科学省においては、増加の背景として保護者の学校に対する意識の変化やコロナ禍の影響による登校意欲の低下などを挙げている。また、不登校の背景は多様で複雑であり、本人や周りの大人にも要因がはっきりと分からないことも予想される。

不登校数の増減等、全体の傾向を捉えることと共に、不登校児童生徒一人ひとりの状況を把握し、その状況に応じた支援を実現させていくことが重要である。

不登校児童生徒欠席状況別人数

校種	欠席状況	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度
		人数	増減	人数	増減	人数	増減	人数	増減	人数
小学校	30日以上欠席	199	↑76	275	↑36	311	↑134	445	↑100	545
	50日以上欠席									397
	90日以上欠席	97	↑33	130	↑30	160	↑30	190	↑54	244
	出席10日以内	18	↑17	35	↑4	39	↑13	52	↑9	61
	出席0日	9	↑7	16	↑3	19	↑6	25	↓-2	23
中学校	30日以上欠席	381	↑43	424	↑27	451	↑168	619	↑180	799
	50日以上欠席									644
	90日以上欠席	257	↑14	271	↑36	307	↑60	367	↑123	490
	出席10日以内	80	↑0	80	↓-1	79	↓-27	52	↑37	89
	出席0日	32	↓-5	27	↓-4	23	↑1	24	↓-1	23

不登校の要因(校種別不登校児童生徒数を基にした各項目の割合 上位5項目)

小学校		中学校	
不安・抑うつ	25.9%	学校生活に対する無気力	27.7%
生活リズムの不調	25.3%	生活リズムの不調	23.2%
学校生活に対する無気力	22.6%	学業の不振	17.3%
親子の関わり方	14.5%	不安・抑うつ	16.3%
学業の不振	13.0%	いじめ被害を除く友人関係	14.9%

いじめについて

いじめの認知件数・解消率

校種	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	認知件数(件)	5,096	2,834	3,979	4,683	4,742
	解消率(%)	68.8%	58.8%	75.3%	61.1%	62.4%
中学校	認知件数(件)	415	211	298	417	290
	解消率(%)	75.9%	64.9%	76.5%	54.0%	67.2%
計(件)		5,511	3,045	4,277	5,100	5,032

いじめ発見の端緒(校種別いじめ認知件数を基にした各項目の割合)

校種	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	教職員等	80.0%	84.9%	88.9%	82.9%	78.0%
	教職員以外からの情報	20.0%	15.1%	11.1%	17.1%	22.0%
中学校	教職員等	76.6%	71.1%	70.5%	82.5%	67.6%
	教職員以外からの情報	23.4%	28.9%	29.5%	17.5%	32.4%

いじめの態様(いじめ認知件数を基にした各項目の割合 上位3項目) ※複数回答

校種	態様	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	冷やかしからい等	79.3%	74.5%	78.1%	76.5%	81.4%
	ぶつかられたり、叩かれる等(軽度)	16.1%	16.1%	13.5%	14.6%	16.1%
	仲間はずれ等	8.6%	13.4%	12.2%	10.5%	10.1%
中学校	冷やかしからい等	65.5%	68.2%	63.8%	78.2%	71.0%
	ぶつかられたり、叩かれる等(軽度)	9.9%	10.0%	18.1%	12.5%	16.6%
	仲間はずれ等	7.5%	8.1%	10.1%	6.2%	12.1%

いじめの現状等

いじめの認知件数は、5,032件で、前年度と比べ、68件減少。

いじめ発見のきっかけとしては、小中学校ともに「学校の教職員等が発見した」が最も多い。

いじめの態様については、小中学校ともに「冷やかしからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多い。

これらのいじめについては、一見して気付きにくい場合も考えられるため、相談窓口の充実などを図り、児童生徒からの情報を得やすくするなどの環境整備が必要である。

暴力行為について

暴力行為発生件数

校種	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校(件)	16	25	57	13	21
中学校(件)	122	77	75	11	10

暴力行為の区別発生件数

校種	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校(件)	対教師暴力	6	6	23	9	6
	生徒間暴力	4	16	34	2	6
	対人暴力	0	0	0	0	0
	器物破損	6	3	0	2	9
中学校(件)	対教師暴力	8	0	0	2	0
	生徒間暴力	87	73	68	6	10
	対人暴力	1	1	0	1	0
	器物破損	26	3	7	2	0

暴力行為の現状等

小学校では、前年度に比べ、暴力行為の発生件数が増加した。特に器物破損に該当する暴力行為の増加。中学校では、発生件数及び発生学校数ともに令和4年度と同様の傾向。

全ての児童生徒に対し、自己の思いを言葉にして伝えていく表現力の育成や、困ったときに助けを出す援助希求行動について、各教科や特別活動などの教育活動を通じて育んでいく必要がある。